
近いけど遠すぎる君

切原美樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

近いけど遠すぎる君

【Zコード】

N4180F

【作者名】

切原美樹

【あらすじ】

慈朗は関東新人戦の時からブン太に憧れていた。しかし、その想いは彼を見るたびに違う方向へ…。ブン太もそんな慈朗が気になるよう…。そして、ブン太を想っている赤也はそんな慈朗に嫉妬を覚えて…。仁王もそんな赤也を、そつと見守っていた。4人の想いが辿り着く場所とは?・?・?なんで、近くにいるのに、こんなに遠く感じるんだろう…・?

Story1 関東新人戦『憧れ』

2年前

中学テニス関東新人戦

俺にとつてはじめての大会。

どんな強いヤツらがいんのかまじワクワクしてた。
んで昨日ずっと眠れなくってそんで・・・

「ZZZ...」

「ジロー テメエさつさと起きねえと試合出さねえぞ...?」

「つたく、ただでさえいつも眠そうなのに、昨日疲れなかつたんじ
や...」

「起きれるワケねえつづりの、アホ。」

だつて、しようがないじゃん？ワクワクしてたんだし。

「つてか跡部が誰を出すかとか、決める権利ないじゃん！」

「アーン？お前何ヶ月部活やつてんだ？俺は部長だからその権利位
はある。」

あ・・・そうだった。

「...な...なんや...あの学校...」

忍足が近くのテニスコートを食い入る様に見ている。

「ゲームセット！ウォンバイ幸村、6-0-！」

「ゲームカウント6-0-!?嘘だろ...」

岳人もその試合に睡然としていた。

「立海大付属」

跡部がぽつりと言つ。

「16年連続で関東制覇している強豪校だ。」
「え、16年間！？まじまじすっげえ！！

そうやつて話しているうちに、次の試合が始まっていた。
立海大付属の選手は赤髪の小柄な選手だった。

「へ…相手はちびかよ。楽勝だな。」

相手選手は立海の赤髪くんを挑発していた。

すると・・・

「シクヨロ 折角だから俺の天才的妙技、たっぷり見て帰れよ。」

赤髪くんは相手の挑発を気にしないで逆に挑発し返していた。
か・・・かつちょ A～！赤髪くん！！

試合が始まる。

赤髪くんは、他の立海選手みたいなすげー技とかを出していなかつた。

「ふん、やっぱ楽勝じゃん。」

相手選手がそう言いながらボールを撃つ。赤髪くんはそれをボレーで返した。

その瞬間・・・会場がざわついた。

ボールがネット上で転がつて、トンツつて落ちた。

「妙技つなわたり…どう、天才的？」
相手を指差して挑発するかの様に言つた。

「立海ベンチ」

「出たね…ブン太の妙技」

「早かつたですね」

「腹立つてたんじゃねーの?」

「ぷりっ」

それからも、赤髪くんの妙技は続いた。そして…

「ゲームセット! ウォンバイ丸井、6 - 1!!」

赤髪く…丸井くんは勝った。

俺は、試合が終わっても、丸井くんを田で追っていた。

この時だった、

君に憧れを抱いたのは…

NEXT

Story1 関東新人戦『憧れ』（後書き）

初の連載ものです。やつぱり駄文（汗）「メンナサイ…」（土下座）キャラの崩壊とかあると思うので、そこも踏まえて読んでくれたら、と思います。
宜しくお願ひします！！

Story2 関東新人戦『きらきら』

もう一度会いたいんだ……。
きらきら輝く君に……。

「慈朗、何ぼーっとしてやがる。」

「つか、こいつが起きてんのって、珍しくね？」

六戸や跡部が話していることも、俺の耳には入っていなかった。

俺は、さっきの立海の試合の事ばかり考えていた。
勿論、あの丸井クンの試合だけ……。

忘れられなかつた。

あのきらきらした表情が……。

君が……。

「なあなあ、侑士！次の対戦校つてどこだよ？」

「んつと・・・なあ、跡部、次はどこなん？」

忍足が跡部に聞く。

跡部がなんかの紙を出す。

その紙に書いてあつた事を跡部が読む。

「立海大附屬。」

え・・・？

立・・・海・・？？

「ちょ、跡部！…それ見して！…」

「おい！？慈朗！…？」

確かにそのプリントには、「立海」と書かれていた。

次の相手が立海つて事は…

俺も丸井クンと戦えるかもしれない！…？

「そつそと行くぞ…！」

あ…跡部怒らしきった？？

ま、いいか

俺等は、次のコートに向かつた。

コートにつくと、もう立海選手は集まっていた。
その中には、丸井クンもいた。

「じゃ、最初の試合、慈朗行つてこい。」

跡部の命令口調は相変わらず。

でも、今の俺には関係ないけどねッ。

でも、第一試合か。

こんな早く丸井クンが出てくるとも想わないし…。
今回はダメかな…、

少しショボンとしながら、コートに立つ。

立海の選手はまだベンチにいるみたい。

いつたい誰が相手なんだろう？？

そんな事を思つてゐると…。

「お前が相手？」

え・・・？

「の…声つて…

夢じゃないか、って思った。

田の前に立つていたのは…

丸井クンだった。

「すつげえ！……！」

「……？？」

俺は嬉しさあまりにさけんでしまった。

丸井クンは超ビックリしてた。

「お…俺、芥川慈朗…さつきの試合、まじまじ感動した…すつげえ！」

もう、嬉しそうで、混乱（？）していた。
我に戻ると、丸井クン…

「あつははは…なにお前…！」
笑ってた…。

「面白れえ奴…ま、いつか。お前もさつきの奴みたいに負かして
やっから…シクヨロ」

おでこの前でピースサインを作つて、自分の位置につく。
俺も自分の場所につく。

試合が始まった…。

NEXT

Story2 関東新人戦『きらきら』（後書き）

久々の投稿です><
えと…なんか長々とスイマセン…;
しかもまだ…！試合始まつてないです…;
あはは。。
もう色々ごめんなさいm(ーー)m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4180f/>

近いけど遠すぎる君

2010年10月10日16時40分発行